

干潟のなぞかけ

1. ねらい

- ・干潟が持つ働き(機能)を例えた道具や品物を用いたなぞかけを通して、干潟にどのような働きがあるのか、楽しみながら考えてもらう。
- ・干潟での各種の観察や活動で得た気づきをふりかえって整理してもらう。

参考 本教材の他の活動後に実施すると、体験をふりかえる効果がある。多様な生きものの存在や生きもの同士のつながり(食物連鎖)、干潟の浄化機能等の生物多様性を扱う『干潟の鳥の観察』・『プランクトン観察①②』・『コメツキガニのお食事観察』・『二枚貝の浄化実験』、鳥の生態について扱う『干潟の鳥の観察』・『干潟の鳥ビンゴ』の理解を深めることができる。

2. 概要

- | | |
|----------|--|
| ○所要時間 | 25分 |
| ○時期 | 通年 |
| ○場所 | 浜もしくは屋内 |
| ○対象 | 小学校高学年以上 |
| ○人数 | 基本的に問わないが、意見交換や議論をじっくり行いたい場合は、5名程度の班に分かれて行う。 |
| ○資材 | スポンジ、泡立て器、赤ちゃん人形、枕、茶こし、スープ |
| ○事前・事後学習 | 渡り鳥の生息地、浄化機能など干潟の価値や働きについて調べる。干潟の働きがどのような仕組みで成り立っているのか調べる。 |
| ○応用 | |
| ○安全管理 | 干潟で実施する場合は、夏は日差しの強いところを避け、冬は風が当たらない落ち着いた場所で行う。 |

16

ひがた 干潟のなぞかけ

下の道具や品物は、干潟の働きを例えたものだよ。

なぞかけに挑戦して、干潟の働きについて考えよう。

スポンジ



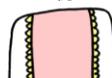
泡だて器



赤ちゃん人形



枕



茶こし



スープ



干潟の働きとかけ、

ととく

(上の道具をあてはめよう)

その心は、



3. 実施の手順

導入(10分)

- ・干潟での観察や体験したこと、気づいたことや学んだことを、ふりかえってみよう、と参加者に投げかける。
- ・たいけんカードのイラストの道具は、これまでの観察や活動を通して実際に見てきたことを干潟の働き(機能)として例えたものであると説明する(実物の道具を用意した場合は、それを見せながら説明する)。
- ・これらの道具は、何を例えたものなのか、個人あるいは班で数分、考えてもらう。

展開(10分)

- ・発表者を決め、以下の掛け合いをリズム良く、楽しく行う。発表者が答えに詰まった場合は、指導者はヒントを与える。
 - ①指導者:「干潟の働きとかけまして、」
 - ②発表者:「○○(道具の名前をあてはめる)と、とく。」
 - ③指導者:「その心は、」
 - ④発表者:「……。」

<干潟の働きの例>

スポンジ	干潟は、川を通じて運ばれた豊かな栄養分を生きものが餌として吸収し、育つ場所。また、その作用は水や土壌の浄化につながっている。 スポンジはものを洗う道具であることから、干潟の浄化機能を表す。
泡だて器	潮の干満により、海水が攪拌される。 干潟は浅い海であることから、酸素が溶けこみやすい場所である。 カニやゴカイ等が巣穴を掘ることで、泥の中に酸素が送りこまれる。
赤ちゃん人形	稚魚、カニやゴカイ等の幼生の成育場または産卵場
枕	渡り鳥の休息の場
茶こし	干潟の生きものの食物連鎖による、泥や海水を浄化する能力。
スープ	野鳥や干潟の生きものにたくさんの餌を供給する場。人間に魚やアサリ、海苔などの食べ物を供給する場。

まとめ(5分)

- ・発表者の発表を受け、指導者は干潟の働きについて上記の例を参考にまとめる。
- ・発表で出なかった働きについては、指導者が補足する。

4. 指導のポイント

・総合的な観察や体験の後に実施する

この活動は、水鳥や干潟の生きもの観察、浄化実験等による気づきを、干潟の働きという視点で改めて捉え直すことにより、干潟の理解を深めることができる。そのため、様々な体験をした後に実施すると効果的である。ただし、体験の前にこの活動を実施し、その実際を干潟で確かめてみる、という方法も可能である。

・発想を楽しみ、議論してもらう

指導者は、個人個人のいろいろな表現や解釈、発想を大切にす。そのためには指導者が干潟の働きをよく理解した上で実施する。班の中で解釈を議論してもらうこともできる。